

十四年度税務豫想處理件數並所要人員調（支那事變關係）

件名	十四年度豫想處理件數	一日一人能率	所要人員
一條一項	四五二	一	四五
三條二項	八三四	五	〇五
其ノ他	一七九九	七	一
計	三〇八四		三
備考	滿洲事件第一次行賞發令後二ケ年 半ノ統計ニ依ル率ヲ以テ計算ス		

行賞人員ヲ百五十万人トシテ計算ス

經常褒賞事務受理及處理數

自昭和十年一月同十二年十二月

褒賞係

昭和十年	受 理 數	處 理 數	備 考
昭 和 十 年	一、九九八	一、〇一六	
〃 十 一 年	二、六七四	一、三三九	
〃 十 二 年	三、六六六	二、〇三〇	
計	八、三三八	四、三八五	
一ヶ年平均	二、七七九	一、四六二	
一ヶ月平均	二三二	一二二	

内
人
間

閣甲 一二二



昭和十四年四月三十日
昭和十四年四月三十日
昭十四年四月三十日



昭和十四年四月二十一日

内閣書記官長



内閣書記官



佐藤

内閣總理大臣 佐

法制局長官



外務大臣

高橋

陸軍大臣

杉山

文部大臣

尾崎

逓信大臣

青木

厚生大臣

高橋

内務大臣

高橋

海軍大臣

米谷

農林大臣

榎本

鐵道大臣

高橋

近衛樞密院議長

大藏大臣

高橋

司法大臣

高橋

商工大臣

高橋

拓務大臣

高橋

内閣所屬部局及職員官制申改正ノ件外件起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

七四

法制局

朕內閣所屬部局及職員官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十四年四月二十四日

內閣總理大臣

勅令第二百三十號

內閣所屬部局及職員官制中左ノ通改正ス

第七條中「書記官 專任三人」ヲ「書記官 專任四人」ニ、「印刷局

書記官 專任二人」ヲ「印刷局書記官 專任三人」ニ、「印刷局技師

專任十六」ヲ「印刷局技師 專任十七」ニ、「屬 專任百五」ヲ「屬

十九人」ヲ「屬

專任百七十二人

ニ、一「技手

十六人

一「技手

十八人

ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(日本標準規格B4列) (横原納)

理由

内閣官房總務課ニ於ケル所掌事務ノ増加ニ伴ヒ内閣書記官一人、内閣印刷局製品ノ製造高増加ニ伴ヒ印刷局書記官一人、印刷局技師一人、屬十三人及技手十七人ヲ増員スルノ要アルト經費節減ノ結果印刷局ニ配置スル技手ノ中五人ヲ減員スルノ要アルトニ依ル

朕內閣所屬臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十四年四月二十四日

內閣總理大臣

勅令第三百三十一號

內閣所屬臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 興亞行政機關設置ニ伴フ増加事務ニ從事スル者

書記官

專任一人

屬

專任六人

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(日本標準規格B4列) (横原納)

理由

興亞院設置ニ伴ヒ増加シタル事務ヲ處理セシムル爲内閣官房會計課ニ
課長トシテ書記官一人及屬四人、同總務課ニ屬二人ヲ臨時増置スルノ
要アルニ依ル

參照

朕内閣所屬臨時職員設置制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十四年三月三十日

内閣總理大臣 男爵 平沼騏一郎

勅令第百三號

内閣所屬臨時職員設置制

第一條 内閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ置キ内

閣官房ニ屬セシム

一 恩給ノ臨時取扱ニ關スル事務ニ従事スル者

屬 專任三人

二 昭和十四年臨時國勢調査ニ關スル事務ニ従事スル者

屬 專任一人

三 支那事變行賞ニ關スル事務ニ従事スル者

屬 專任四人



内閣

第二條 恩給ノ臨時取扱ニ關スル事務ニ從事セシムル爲内閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ置キ恩給局ニ屬セシム

屬 專任三十四人

第三條 昭和十四年臨時國勢調査ニ關スル

事務ニ從事セシムル爲内閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ置キ統計局ニ屬セシム

統計局書記官 專任一人

統計局統計官 專任三人

統計局統計官補 專任十一人

屬 專任七人

附 則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

參照

昭和十四年度大藏省所管一般會計歲入出豫算

歲出經常部

第二款 內閣

第一項 俸給

第二目 奏任俸給

第一節 書記官

專任內閣書記官三人及增加見込一人計四人 (中畧) 計十六人、俸給一人平均年俸參千百貳拾圓



參照

昭和十四年度大藏省所管追加豫算

歲出臨時部

第三十九款 內閣興亞行政諸費

第一項 俸給

目

十四年度追加要求額

第二目 奏任俸給

一六七四〇〇

第二節 書記官

二八〇八〇円

興亞院書記官專任定員八人及內閣書記官一人計九人、俸給一人平均年俸三一二〇円

第三目 判任俸給

八六、六八〇

第一節 屬

六八九五円



興亞院屬專任定員五十七人及增加見込人員七人、内閣屬六人計七十人、俸給一人平均年額九八五円

(第二號用紙)

昭和十四年度大藏省所管

印刷局作業歲入歲出豫定計算書各目明細書拔萃

印刷局作業

歲出

第一款 印刷局作業費

二三〇五〇、六六一

第一項 俸給

三〇五一六〇

目

十四年度豫定額

十三年度豫定額

比較ノ減差

第二目 奏任俸給

五九二八〇

五三、五二〇

五七六〇

〇

第一節 書記官

八六四〇

專任定員二人及增加見込人員一人計三人ノ俸給一人平均年俸貳千八百八拾圓

第三節 技師

四六〇八〇

專任定員十六人及增加見込人員一人計十七人ノ内十六人ノ俸給一人平均年俸貳千八百八拾圓

增員内譯

(甲)内閣所屬部局及職員官制中改正ニ依ル分

(一)内閣官房

書記官 一人、内閣官房總務課ニ配置

(二)内閣印刷局

印刷局書記官 一人

印刷局技師 一人

屬 十三人

技手 十二人

別紙説明書ノ通

(乙)内閣所屬臨時職員設置制中改正ニ依ル分

内閣官房

書記官 一人、專任會計課長ニ充ツ

屬 六人 内閣官房會計課 四人
内閣官房總務課 二人

内閣

内閣所屬部局及職員官制中改正ニ依ル内閣官房ノ増員

内閣書記官増員理由（經常部）

國運ノ進展ニ伴ヒ各省一般行政事務ハ近時益々増加ノ趨勢ヲ示シ從
ツテ内閣官房總務課ノ所管ニ係ル法律命令等ノ公布ニ關スル事項、
公文書類ノ査閱ニ關スル事項、官吏ノ進退身分ニ關スル事項ノ事務
ノ膨張ハ殊ニ著シキモノアリ加之親任式、親補式等ニ際シテハ皇室
儀制令ノ定ムル所ニ依リ必ズ朝儀ニ列スルノ要アルト行幸ニ當リテ
ハ上奏事務處理ノ爲必ズ行幸先内閣臨時出張所ニ出張勤務スル必要
アリ現在職員ヲ以テシテハ事務上支障ヲ生ズル虞アルニ依リ之等ノ
事務ノ圓滿ナル遂行ヲ期スル爲專任内閣書記官一人ヲ増員スルノ要
アリ

內閣官房總務課庶務係處理件數調
閣官房總務課

年次	件數
大正十四年度	一、九〇〇
大正十五年	三、六七一
昭和二年	一、九八二
同 三年度	二、三九九
同 四年度	二、八〇八
同 五年度	三、〇〇四
同 六年度	二、〇六三
同 七年度	三、六三四
同 八年	四、九五八
同 九年	五、一七五
同 十年	五、一六〇
同 十一年	五、〇一四

同	十二年	七五五二
同	十三年 (八月迄)	六〇七一

備考

大正十四年度以降昭和七年度迄ハ三月迄ノ年度別ノ件數ヲ示シ
 昭和八年以降昭和十三年迄ハ歷年件數ヲ示ス

昭和十三年	六〇七一
昭和十二年	七五五二
昭和十一年	
昭和十年	
昭和九年	
昭和八年	
昭和七年	
昭和六年	
昭和五年	
昭和四年	
昭和三年	
昭和二年	
昭和一年	
大正十四年	
大正十三年	
大正十二年	
大正十一年	
大正十年	
大正九年	
大正八年	
大正七年	
大正六年	
大正五年	
大正四年	
大正三年	
大正二年	
大正一年	

内閣官房總務課人事係處理件數調
 (人事、任免、敘位、敘勳、其他件數)

廳別	昭和七年度	昭和十二年度	比較増減
内閣	九一六六七	一三二一三七七	三九六〇〇
宮内省	一四	八	△六
外務省	六七〇	三五八八八	三五二一八
内務省	四〇〇三	四九四四	九四一
大藏省	一三九一	二九三〇	一五三九
陸軍省	二二〇四二	四〇八一三	一八七七一〇
海軍省	六〇六三	七六五〇	一五八七
司法省	一五一五	二五七三	一〇五八
文部省	一六六三九	一六七〇二	六三
農林省	二〇五五	三三五七	一三〇二
商工省	一〇八一	一六九九	六一八

總計	召集免除	閣議	合計	厚生省	拓務省	鐵道省	逓信省
一六〇・七二	二五七五	五〇七	一五六九〇	一	四七〇・二	二二五一	二八八七
二六五六八三	一八三一	一〇八九	二六二七七二	五六八	六三一四	三三四一	四八〇九
一〇五六一〇	△ 七五四	五八二	一〇五七八二	五六八	一六一三	九九〇	一九二二

内閣所属臨時職員設置制中改正ニ依ル内閣官房増員

興亞行政ニ關スル増員説明（昭和十四・四・一〇）

一、内閣官房會計課

書記官 一人
屬 四人

(一) 興亞院及文化事業ノ豫算ノ編成及其ノ配付竝ニ決算事務ノ爲二人ヲ要ス

(二) 右豫算執行ニ關スル諸支拂ノ事務及各連絡部資金交付等ノ事務ノ爲二人ヲ要ス

(三) 右(一)、(二)ノ事務ノ統轄ノ爲書記官一人ヲ要ス

内閣書記官増員理由

内閣官房會計課ノ事務ハ輒近著シク増加シ其ノ内容モ複雑トナリ
更ニ時局ノ影響ニ依リ内閣各局課ノ膨脹ニ伴ヒ其ノ所掌事務ハ益
益増加チ來シタル處最近興亞院及同連絡部設置セラレ其ノ豫算ハ
昭和十四年度ニ於テ約四千五百萬圓ニ上リ其ノ内容複雑多岐ニ亘
ルニ^{至リタリ}（別紙豫算参照）依テ會計事務ヲ統轄スル專任書記官ヲ
置キ會計事務ノ遂行ニ付遺憾ナカラシムルノ要アリ

内閣官房會計課判任官調

(昭和十四・四・十)

	會計課	主計係	庶務	豫算決算	調査	收入支	用度係	物品	契約	營業
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	技手	一	一	一	一	一	一	一	一	一

備考

定員ノ内
經常部屬 九人・技手 一人
臨時部屬 七人

内閣

興亞院關係會計事務、爲屬四人、増量理由

内閣官房會計課、事務ハ近時益々増加シ来リタル處更ニ興亞院及同連絡部、設置ニ伴ヒ急激ニ増加シ従来、職員ニテハ到底處理シ得サル状態トナレリ

即チ昭和十四年度ニ於ケル實行豫算ニ見ルモ内閣所管總費額六千五百萬円中興亞院内譯、今ハ四千四百萬円ニシテ總額ノ内六割八分ニ當リ、機密費補助費^等除キタル事務費關係ノミニ見ルトキハ約七割ニ相當スル部分ヲ占メ之ガ爲豫算決算ノ事務及支拂ニ關スル事務ハ激増ヲ来シタルヲ以テ之ガ事務ノ遂行ヲ期スル爲關係係職員、増量ヲ要スルモノナリ

昭和十四年度内閣所管實行豫算調

		比率
〔總類〕		
内閣府	6,212,271	68%
内閣府	8,842,401	
其他内閣府 所管費	2,070,733	32%
〔一〕事務費關係		
	2,933,472	30%
中興車陳興亞虎	2,062,282	
其他其他	871,190	9%

内閣所屬實行豫算前年度ト比較

	昭和十三年度	十四年度	比率	比較	備考
(一) 總額	五六三九一、六四六	六五、一五二、七七二		△八、六一、一四五	
興亞院	一、七六七、三三五	四、四六五、四八一	68%	△二、八七八、二〇六	
其他内閣 後經費	五四、五三四、三九一	二〇、五〇七、三三〇	32%	△三、四〇一、六〇一	
(二) 事務費関係	九、七六四、三〇六	二九、三三四、七九九		△一、九五七、〇五三	
興亞院	九、五六八、八八八	二〇、六四五、四四二	70%	△一、六八八、六五四	
其他	八、八〇七、三三八	八、六八九、二八七	30%	△一、一一八、一〇一	

備考

總額、内減少額ハ北支那及中支那兩會社出資金三七五萬圓
 恩給金庫出資金一〇〇萬圓支那事件行賞諸費金杯廢
 止等依此減三三三萬圓、純元二千六百奉祀會補助金一〇〇萬
 圓等是に増加額、ハ、是れを以て差引三千四百萬圓減少也。

二、内閣官房總務課

興亞行政ニ關スル増員説明

属二人

(昭和十四、四、十)

支那事變以來内閣官房總務課ニ於ケル興亞行政ニ關スル事務ハ進時益々増加シ殊ニ事變目的達成上緊要ナル諸政策ノ決定、施行乃至之ニ關スル諸法令ノ制定公布ニ關スル事務若ハ支那ニ關スル特殊諸會社(北支那開發株式會社、中支那振興株式會社)ノ業務ノ監督ニ關スル事務(以上庶務)其ノ他興亞院及興亞院連絡部高等官ノ増加ニ伴ヒ之ガ任免、敘位、敘勳、給與其ノ他身分ニ關スル事務ノ増加(以上人事)ハ其ノ顯著ナルモノニシテ之ガ圓滿ナル事務ノ遂行ヲ期スル爲關係職員ノ増員ヲ要スルモノナリ。

内閣官房總務課係別判任官定員配置表

昭和十四、四、一〇現在
 赤ハ昭和十四年度増員

計						
一四	二	一	二			
五	一	四				
五	一	四				
一		一				
一		一				
二		二				

内閣總理事務大臣
 秘書官室

備考 本表ニハ便宜内閣總理大臣秘書官室勤務ノモノヲモ表示
 セリ

内閣



法制局内 第六五號

昭和十四年三月二十日

總往第一八七號

昭和十四年三月十七日

內閣印刷局長 土屋 耕二



內閣總理大臣男爵 平沼 騏一郎 殿

內閣所屬部局及職員官制中改正ノ件

內閣所屬部局及職員官制中左案ノ通改正方御取計相願度此段上申候也

關甲六六

內閣印刷局



案

內閣所屬部局及職員官制中左ノ通改正ス

第七條中「印刷局書記官專任二人」ヲ「印刷局書記官專任三人」ニ、
「印刷局技師專任十六人」ヲ「印刷局技師專任十七人」ニ、
「屬 專任百五十九人」ヲ「屬 專任百七十二人」ニ、
「技手 專任百二十八人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由

内閣印刷局製品ノ製造高増加ニ伴ヒ印刷局書記官一人、印刷局技師一人、屬十三人、技手十七人増加ノ必要アルモ技手ニ於テハ經費節減ノ結果五人減員シ得ベキ見込ナルヲ以テ差引十二人増加ノ必要アルニ由ル

内閣印刷局

説明

製造品製造高増加ニ依ル増員

當局近年ニ於ケル各種製造品ノ増加ハ國運ノ急激ナル進展ニ伴ヒ極メテ著シキモノアリ爲ニ逐年各部門ノ充實強化ヲ圖リ事業遂行ノ萬全ヲ期シ來リタル次第ナルモ昭和十四年度ニ於ケル各種製造品ノ製造見込高ハ

種別	製造量	見込高	
		金額	枚
兌換銀行券	三一六〇五〇〇〇	一〇一、一〇〇、〇〇〇	枚
小額紙幣	三七六〇〇〇〇〇	二八、二〇〇、〇〇〇	
國債證券	一〇八、九四三、〇〇〇	一、九三〇、三三〇、〇〇〇	
抄造紙	四八六、九六三、五〇〇	二一、四二六、三九四、〇〇〇	
機密印刷物 活版印刷物 其他		三〇五、三八五、七一四、六〇〇	
計		六八六、一九〇、二四五、四〇〇	
		二六九、二八九、三〇〇、〇〇〇	

印刷局

ニシテ之ヲ既往三ヶ年ノ製造高

年 度	兌換銀行券		小額紙幣		國債證券		抄 造 紙		其他印刷物其	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
昭和十一年度	天,〇〇〇,〇〇〇枚	四,四三六,〇〇〇円	〇枚	〇円	九,七三〇,〇〇〇枚	一,〇四四,〇〇〇円	六,五〇〇,〇〇〇枚	四,五九〇,〇〇〇円	一八,五二八,〇〇〇枚	三,九三三,〇〇〇円
十二年度	八,四九八,〇〇〇枚	六,一〇六,九八〇円	〇枚	〇円	四,七九五,〇〇〇枚	一,〇〇三,四八〇円	五,〇〇〇,〇〇〇枚	七,〇一八,〇〇〇円	一〇,九三三,九八〇枚	五,〇〇〇,〇〇〇円
十三年度	三,〇〇〇,〇〇〇枚	一〇,三三三,五〇〇円	八,〇〇〇,〇〇〇枚	七,四四〇,〇〇〇円	九,〇〇〇,〇〇〇枚	一,五九七,〇〇〇円	六,五〇〇,〇〇〇枚	六,八〇〇,〇〇〇円	一〇,四四三,三三〇枚	六,四〇〇,〇〇〇円

ニ比較スレバ

年 度	兌換銀行券		小額紙幣		國債證券		抄 造 紙		其他印刷物其	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
昭和十一年度	一五六,〇〇〇枚	五,八三四,〇〇〇円	三,七〇〇,〇〇〇枚	三,八〇〇,〇〇〇円	一八,五九〇,〇〇〇枚	三,五七四,〇〇〇円	一七,〇三六,〇〇〇枚	四,〇〇〇,〇〇〇円	一〇,〇〇〇,〇〇〇枚	三,〇〇〇,〇〇〇円
同十二年度	一三〇,〇〇〇枚	四,〇三三,〇〇〇円	三,七〇〇,〇〇〇枚	三,八〇〇,〇〇〇円	九,七三〇,〇〇〇枚	一,〇四四,〇〇〇円	五,〇〇〇,〇〇〇枚	七,〇一八,〇〇〇円	一〇,九三三,九八〇枚	五,〇〇〇,〇〇〇円
同十三年度	五七,五〇〇枚	二,〇〇〇,〇〇〇円	二,九〇〇,〇〇〇枚	二,七〇〇,〇〇〇円	三,三三〇,〇〇〇枚	三,三三〇,〇〇〇円	二,三〇〇,〇〇〇枚	二,三〇〇,〇〇〇円	二,三〇〇,〇〇〇枚	二,三〇〇,〇〇〇円

ノ如ク其ノ増加極メテ顯著ナルモノアリ到底現在ノ人員ヲ以テハ之等
 急激ナル各種製造品ノ需要充足ヲ爲シ得ザルニ至リタル爲書記官一人
 技師一人、屬十三人、技手十七人ノ増員ヲ爲シ事業遂行ノ完璧ヲ期セ
 ントスルモノナリ即チ

(折上リ國定規格B5判)

一、書記官一人、屬十三人

當局ニ於ケル各般ノ事務ハ近年ニ於ケル著シキ事業ノ増大ニ伴ヒ甚ダシキ幅濶ヲ招來シ爲ニ之等各般事務ニ從事スル者ノ手不足ヲ痛感シ來リタル處更ニ昭和十四年度ニ於ケル各種製造品ノ極メテ多額ナル増加ハ之ニ一層ノ拍車ヲ加フルニ至リ到底現在ノ配置人員ヲ以テハ手廻リ兼ヌルニ依リ書記官一人、屬十三人ヲ増員配置シ以テ事務處理ノ完璧ヲ期セントスルモノナリ

二、技師一人、技手十七人

當局ニ於ケル各般ノ製造作業ハ近年ニ於ケル各種製造品製造高ノ増加ニ伴ヒ甚ダシキ幅濶ヲ招來シ爲ニ前年度ニ於テ工場設備ノ擴張ヲ爲スト共ニ其ノ勤務モ從來ノ延時、廢休等ニ加フルニ晝夜交代ノ作業ヲ開始シ辛フジテ需要ノ充足ヲ爲シ來リタル處昭和十四年度ニ於ケル製造品ノ極メテ多額ナル増加ハ更ニ工場設備ノ擴張ヲ要スルト共ニ各部門ニ於ケル晝夜交代作業ニ付テモ其ノ範圍ヲ更ニ擴張スル

(第二號用紙)

定員配置表

(朱書數字ハ増加人員チ示ス)
△印ハ減員チ示ス

配置部課掛	分擔事務	書記官	技師	人	屬員	技手
總務部		一(部長)				
庶務課		一(課長)				
秘書掛	職員ノ身分進退等ニ關スル事務				一	五
文書掛	文書ノ取扱等ニ關スル事務				三	
監査掛	購入物品ノ檢收等ニ關スル事務				八	
福利掛	共済組合、福利施設等ニ關スル事務				一	六
庶務掛	警備取締、傭員ノ監督等ニ關スル事務				五	
經理課		(兼務) 課長				
會計掛	徵收、支出及豫算整理等ニ關スル事務				一	一
用度掛	物品購入ニ關スル事務				一	二
官報課						
官報掛	官報、法令全書等ノ編輯ニ關スル事務				八	

印刷局

圖書掛	發行課	計畫掛	發賣掛	業務課	業務掛	調査掛	工作課	機械掛	管繕掛	病院	計	圖書印刷部	整理掛
刊行物（官報、法令全書及職員録ヲ除ク）ノ編輯等ニ關スル事務	刊行物ノ發行計畫、普及宣傳等ニ關スル事務	刊行物ノ發行計畫、普及宣傳等ニ關スル事務	刊行物ノ發賣等ニ關スル事務	製造品ノ注文引受、見積書作製等ニ關スル事務	製造品ノ注文引受、見積書作製等ニ關スル事務	生産費、工場能率、製造計畫ノ基本的事項等ノ調査ニ關スル事務		配電、機械修理等ニ關スル作業	國有財産管理並ニ管繕等ニ關スル作業	診療料金ノ徴收及診療費支出ニ關スル事務			物品會計、給料計算等ニ關スル事務
	(兼務) 課長		一								一二		
				(兼務) 課長			一 (課長)				一	(兼務) 部長	
											一七九		一三
			一三二四			一六					一		△
											一		二三
											二五		
											一		
											三		
											二八		

(折上リ 國定規格 B5 判)

製 版 課	鑄 造 掛	組 版 掛	平 版 掛	校 正 掛	圖 書 印 刷 課	官 報 掛	印 刷 掛	製 本 掛	發 送 掛	計	證 券 印 刷 部	整 理 掛	彫 刻 課
	地金調製及活字ノ鑄造ニ關スル作業	組版ニ關スル作業	寫眞製版及平版印刷ニ關スル作業	校正ニ關スル作業		官報ノ製版及印刷ニ關スル作業	活版印刷ニ關スル作業	製本、仕上及稅印押捺ニ關スル作業	刊行物等ノ發送ニ關スル作業			物品會計、給料計算等ニ關スル事務	印刷用原版ノ製造等ニ關スル作業
一(課長)					一(課長)					一一二	一(部長)		二(內一課長)
										一三	一五		
										△	△	△	
										二			
	一	五	一五	一四		一三	一二	一一	一一	三四五		一三	一九

印刷局

葉書掛	郵券掛	第二検査掛	第一検査掛	検査課	仕上掛	平版掛	第二凸版掛	第一凸版掛	凹版掛	調紙掛	整版掛	証券印刷課	材料課
郵便葉書ノ印刷、仕上、検査及封包ニ 關スル作業	収入印紙、郵便切手等ノ仕上、検査及封包ニ關スル作業	小額紙幣ノ仕上、検査及封包ニ關スル作業	有價証券類ノ検査及封包ニ關スル作業		有價証券類ノ仕上ニ關スル作業	平版印刷ニ關スル作業	四色印刷機ニ依ル凸版印刷ニ關スル作業	四色印刷機ニ依ル以外ノ凸版印刷ニ關スル作業	凹版印刷ニ關スル作業	有價証券類用紙ノ調紙ニ關スル作業	印刷用版面ノ製造ニ關スル作業		印刷用インキ類ノ製造ニ關スル作業
				一(課長)								二(内一課長)	一(課長)
一	一	一	三		三	△	六	四	二	七	三	一	四
						一	七						八

(折上リ 國定規格 B5 判)

(第二號用紙)

抄紙部	整理掛	紙料課	準備掛	調製掛	抄造課	手漉掛	特抄掛	機械漉掛	仕上掛	検査掛	計	研究所
	物品會計、給料計算等ニ關スル事務		製紙原料ノ處理及製業ニ關スル作業	紙料調製ニ關スル作業		手漉抄紙及漉桁製作ニ關スル作業	兌換銀行券類用紙抄造ニ關スル作業	機械抄紙ニ關スル作業	紙ノ仕上ニ關スル作業	紙ノ検査ニ關スル作業		印刷及製紙ニ關スル技術、學術ノ研究等ニ關スル事務
					一(課長)							
		二(課長)										三(内一)所長
一(部長)	四											
七	一五											
△	△											
六	一											
五六〇			二四	二四		一	三	一五	二	一	二	三

印刷局

													合 計
													一三
													一六
													一六
													一九
													三一
													△
													一三
													一三
													五七四

一三
一六
一六
一九
三一
△
一三
一三
五七四

内
開
自
届
辰

(折上リ 國定規格 B5 判)

(第一號用紙)

內閣印刷局

判任官缺員調

昭和十四年四月十一日現在

種別		總算人員	現在人員	缺員	備考
屬	技	九一	九〇	一	缺員、由六名ハ 既着手逐進 行中
手	計	一二四	一一一	一三	
		二一五	二〇二	一四	
奏仕官 缺員十					

增加人員事務分擔表

一、書記官一人 總務部業務課長ハ從來研究所勤務ノ技師ヲシテ之レヲ兼務セシメ來リタルノ處近次各種製造品ノ急激ナル増加ハ業務課ニ於ケル製品受註、製造計畫等ノ事務ノ甚ダシキ幅俵ヲ招來シ現在ノ如ク研究所勤務ノ技師ヲシテ之ヲ兼掌セシムルニ於テハ到底複雑繁多ナル該事務ノ圓滑適正ヲ期シ得ザルニ依リ書記官一人ヲ増員シ專任業務課長タラシメ以テ各般事務ノ處理上萬遺憾無キヲ期セントス

二、技師一人 圖書印刷部長ハ從來研究所長ヲシテ之ヲ兼務セシメ來リタルノ處近次圖書印刷部ニ於ケル陸海軍其ノ他依頼ニ係ル機密印刷物竝ニ時局宣傳印刷物等ノ重要製造品ハ急激ナル増加ヲ爲スニ至リ爲ニ現在ノ如ク研究所長ヲシテ之ヲ兼掌セシムルニ於テハ到底之等機密緊急ヲ要スル印刷物製造作業ノ圓滑ト迅速トチ缺クノミナラズ延テハ機密保持上ニモ遺憾ノ點發生スル無キヤモ保シ難キ次第ナルニ依リ技師一人ヲ増員シ專任圖書印刷部長タラシメ以テ之等製造

作業遂行上萬遺憾無キヲ期セントス

三、屬十三人

内譯次ノ如シ

人員	配屬部課掛	分擔事務	増員理由
一	總務部庶務課 秘書掛	職員ノ身分進退等 ニ關スル事務	從來屬五人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リタルモ事業ノ増大ニ伴フ職員ノ増加ハ之等ニ關スル事務ノ甚ダシキ幅轆ヲ觀ルニ至リタルノミナラズ時局ノ影響ニ基ク一般工員ノ命免等ノ事務極メテ繁劇ヲ加フルニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス
職員以上	昭和十四年度(見)	十三年度	比較増加増加率
	109	101	75%

(折上リ國定規格B5判)

福利掛	共濟組合、福利施設等ニ關スル事務	從來屬六人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リタルモ事務ノ増大ニ伴ヒ共濟組合員著シク増加シ共濟組合關係事務並ニ従業員ノ教育、慰安、救恤、貯金其ノ他ノ福利施設ニ關スル事務甚ダシク幅濶スルニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス	工員及傭人	六六一	五二五六	一三五五	ニ六
計			計	七七〇三	六二七三	一四三〇	ニ三
種別	昭和十四年度(兼)十三年度	比較増加	增加率				
男	三八〇八	三一四五	六六三	ニ一			
女	三四九七	二七五九	七三八	ニ七			
計	七三〇五	五九〇四	一四〇一	ニ四			

共濟組合員數比較調

内閣印刷局

二 同 經理課 會計掛		徵收、支出及豫算 整理等ニ關スル事務		從來屬十一人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リ タルモ製造品製造高ノ増加ニ伴ヒ製品 賣拂代金ノ徵收、購入物品代金ノ支拂 及豫算整理等ニ關スル事務甚ダシク幅 曠スルニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ手廻 リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス	
二 同 用度掛		物品購入ニ關スル 事務		從來屬十人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リタ ルモ製造品製造高ノ増加ニ伴ヒ之等製 造品ノ製造ニ要スル材料品其ノ他ノ物	
種別	昭 和 十 四 年 度 (見込)	十 三 年 度	比 較 増 加	増 加 率	
收入事務 取扱件數	二五〇〇〇	二〇七九二	四二〇八	二〇割	
支出事務 取扱件數	四八〇〇	四〇一一	七八八	二〇割	
豫算整理事 務取扱件數	一三〇〇〇	一〇七九四	二二〇六	三〇割	

(折上り國定規格B5判)

同發行課 計畫掛 ル事務	刊行物ノ發行計畫 普及宣傳等ニ關ス	種別	昭 和 十 四 年 度 (見込)	十 三 年 度	比較増加	増加率
			物品購入 物件數	一三〇〇〇	一〇七九四	二二〇六
品購入ニ關スル事務甚ダシク輻輳スル ニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ手廻り兼ヌ ルニ依リ増員ヲ要ス						
從來屬四人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リタ ルモ近時刊行圖書種目ノ増加ニ伴ヒ發 行計畫、普及宣傳等ノ事務甚ダシキ輻 輳ヲ觀ルニ至リタルノミナラズ十三年 十一月ヨリ從來內閣情報部ニ於テ編輯 發行ヲ爲シ來リタル寫眞週報ノ發行ヲ モ司掌スルニ至リタルノ結果一層ノ繁 劇ヲ加フルニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ 手廻り兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス						

印刷局

種別		昭和十四年度(見込)	昭和十三年度	比較増加	増加率
刊行圖書種目數調					
種別	昭和十四年度(見込)	十三年度	比較増加	増加率	
圖書種目	一三〇	七七	四三	五割六	
刊行部數	二七、〇〇〇	二、〇九、九三三	六九、〇八七	三割四	
一 同 發賣掛	刊行物ノ發賣等ニ關スル事務	増員理由計畫掛ニ同ジ從來ノ配置人員屬三人			
一 同 業務課 業務掛	製造品ノ注文引受見積書作製等ニ關スル事務	從來屬六人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リタルモ各種製造品ノ注文引受高増加ニ件ヒ注文者トノ連絡折衝、見積書作製等ニ關スル事務甚ダシク輻輳スルニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス			
	製造品引受竝ニ見積書作製件數調				

(折上リ國定規格B5判)

		受註件數 一六〇〇〇 一三五六	二四六四	一八
一同	調查掛	見積書作 製件數 九〇〇〇 七五四九	一四五二	一九
	生産實費、工場能率 製造計畫ノ基本的事 項等ノ調査ニ關スル 事務	從來屬二人、技手三人計五人ヲ以テ之 ニ當ラシメ居リタルモ製造品製造高ノ 増加ハ之等製造品ノ生産實費調査事務 ノ著シキ繁劇ヲ招來スルニ至リタルノ ミナラズ他面工場能率、製造計畫ノ基 本的事項ノ調査事務ノ充實ヲ圖リ作業 遂行ノ萬全ヲ期スルノ要アリ現在ノ人 員ヲ以テハ手廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ 要ス	從來屬二人、 <small>（但し技手）</small> 技手一人計三人ヲ以テ之 ニ當ラシメ居リタルモ製造品ノ急激ナ ル増加ニ伴ヒ貴重製品ノ引渡、購入物	
一	圖書印刷部 整理掛	物品會計並ニ給料 計算等ニ關スル事 務		

		品ノ出納保管並ニ従業員ノ増加ニ基ク
		給料計算等ニ關スル事務甚ダシク輻輳
		スルニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ
		兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス
一	證券印刷部 整理掛 物品會計並ニ給料計 算等ニ關スル事務	増員理由圖書印刷部整理掛ニ同シ從來
		ノ配置人員屬四人、 <small>但書</small> 技手二人計六人
四	技手十七人	
	内譯次ノ如シ	
人員	配置部課掛	増員理由
一	圖書印刷部 製版課平版掛	從來技手四人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リ
	寫眞製版及平版印刷 ニ關スル作業	タルモ寫眞週報其ノ他刊行物ノ製造高
		著シク増加シ寫眞製版及平版印刷ニ關
		スル作業甚ダシク輻輳シ現在ノ人員ヲ
		以テハ手廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス

(折上リ國定規格B5判)

<p>一 同 校正掛 校正ニ關スル作業 從來技手四人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リ タルモ機密印刷物其ノ他活版印刷物製 造高ノ増加ニ伴ヒ校正ニ關スル作業甚 ダシク輻輳シ現在ノ人員ヲ以テハ手廻 リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス</p>	<p>一 同 印刷課印刷掛 活版印刷ニ關スル 從來技手二人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リ タルモ機密印刷物其ノ他活版印刷物製 造高ノ増加ニ伴ヒ印刷作業甚ダシク輻 輳シ晝夜作業ヲ爲スノ要アルニ至リタ ル爲現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ兼ヌル ニ依リ増員ヲ要ス</p>	<p>一 同 發送掛 刊行物等ノ發送ニ 從來官報掛ニ於テ取扱ハシメ居リタル モ近時週報、寫眞週報其ノ他刊行物ノ 急激ナル増加ニ伴ヒ刊行物ノ發送作業</p>
--	---	---

印刷局

	甚ダシク幅轉シ之ガ敏活適正ヲ期シ得ザルノ虞アルニ至リタルノ結果新ニ發送掛ヲ設ケ該作業ヲ專掌セシムルノ要アルニ依リ之ニ對スル増員ヲ要ス
一 證券印刷部 彫刻課等ニ關スル作業	從來技手九人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リタルモ小額紙幣其ノ他有價證券類製造高ノ増加ニ伴ヒ原版製造ノ作業甚ダシク幅轉スルニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス
一 證券印刷部 印刷課整版掛ニ關スル作業	從來技手四人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リタルモ小額紙幣其ノ他有價證券類製造高ノ増加ニ伴ヒ印刷用實用版面製造ノ作業甚ダシク幅轉スルニ至リ現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス

(折上リ國定規格B5判)

	要ス
一 同 調紙掛	有價證券類用紙ノ 調紙ニ關スル作業 從來凹版掛ニ於テ取扱ハシメ居リタル モ近時小額紙幣其ノ他有價證券類製造 高ノ急激ナル増加ニ伴ヒ調紙作業甚ダ シク輻轉シ作業ノ圓滑ナル遂行ヲ期シ 得ザルノ虞アルニ至リタルノ結果新ニ 調紙掛ヲ設ケ該作業ヲ專掌セシムルノ 要アルニ依リ從來凹版掛ノ技手十人中 三人ヲ分任セシムルノ外増員ヲ要ス
二 同 凹版掛	凹版印刷ニ關スル 作業 從來技手十人中七人ヲ以テ之ニ當ラシ メ居リタルモ近時小額紙幣其ノ他ノ有 價證券類製造高ノ急激ナル増加ニ伴ヒ 凹版印刷作業甚ダシク輻轉シ機械設備 ノ増設ヲ爲スノ要アルニ至リタル結果

一 同 第二検査掛	小額紙幣等ノ仕上 検査及封包ニ關ス ル作業	現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ兼ヌルニ依 リ増員ヲ要ス	從來仕上、検査ノ兩掛ニ分屬取扱ハシ メ居リタルモ小額紙幣 <small>（本紙幣以外）</small> 他有價證券 類ノ急激ナル増加ハ到底現在ノ作業場 ヲ以テハ狹隘ニシテ作業ノ遂行ヲ爲シ 得ザルノミナラズ之等有價證券類ハ兌 換銀行券、國債證券等トハ製造工程ヲ 異ニスルノ關係上此ノ際工場ノ擴張ヲ 爲スト共ニ新ニ之等特殊有價證券類ノ 仕上、検査及封包作業ヲ分離シ一掛ニ 專掌セシムルノ要アルニ依リ從來検査 掛技手四人中一人ヲ分任セシムルノ外 増員ヲ要ス
--------------	-----------------------------	-----------------------------	--

(折上リ國定規格B5判)

(第二號用紙)

二 抄紙部紙料課 準備掛製紙原料ノ處理及 製藥ニ關スル作業	從來技手四人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リ タルモ製造品製造高ノ増加ニ伴ヒ所要 紙料ノ消費高著シク増加シ爲ニ製紙原 料ノ處理及製藥ニ關スル作業甚ダシク 輻輳シ機械設備ノ増設竝ニ晝夜作業ヲ 爲スノ要アルニ至リタル結果之等新設 機械運轉上ノ技術指導者竝ニ夜間作業 ノ監督者ヲ要スル爲現在ノ人員ヲ以テ ハ手廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス 増員理由準備掛ニ同ジ 從來ノ配置人 員技手四人
一 同 抄造課 機械澆掛 機械抄紙ニ關スル 作業	從來技手五人ヲ以テ之ニ當ラシメ居リ タルモ小額紙幣用紙其ノ他ノ抄造高著 シク増加シ爲ニ機械抄紙ニ關スル作業

二 總務部 工務部 作課	二 配電、機械修理等 ニ關スル作業	甚ダシク幅糎シ現在ノ人員ヲ以テハ手 廻リ兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス	從來技手八人 ヲ以テ之ニ當ラシメ居リ	タルモ製造品製造高ノ増加ニ伴フ各種	機械類ノ増設 <small>（増設ノ機）</small> 晝夜作業範圍ノ擴大等	ニ基因シ配電、機械修理等ノ作業甚ダ	シク幅糎シ現在ノ人員ヲ以テハ手廻リ	兼ヌルニ依リ増員ヲ要ス												
-----------------------	-------------------------	------------------------------------	-----------------------	-------------------	---	-------------------	-------------------	-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(折上リ國定規格B5判)

閣中 一二四

昭和十四年四月二十四日

内閣書記官長

内閣書記官

佐藤



昭和十四年四月二十四日公布



内閣總理大臣 **近**

法制局長官



外務大臣

近

陸軍大臣

近

文部大臣

尾

遞信大臣

近

厚生大臣

近

内務大臣

近

海軍大臣

近

農林大臣

近

鐵道大臣

近

近衛樞密院議長

大藏大臣

近

司法大臣

近

商工大臣

拓務大臣

近

法制局官制中改正ノ件外一件起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

別紙ノ通

合 案

内閣、並關憲兵部、及之、何然、小、臨、心

去、陳、官、臨、中、之、五、平、水、一、切、懸、案、上、申、入、封、云

大藏大臣

五

内務大臣

六

商工大臣

海軍大臣

内務大臣

七

海軍大臣

八

農林大臣

九

陸軍大臣

十

大藏大臣

十一

内務大臣

十二

海軍大臣

十三

農林大臣

十四

陸軍大臣

十五

内閣懸聖大臣

若、歸、何、身、官

内閣

平

八

日

内閣、並、官、員

内閣、並、官、員

分

分

分

分

分

分

分

分

分

朕法制局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十四年四月二十七日

内閣總理大臣

勅令第百六十八號

法制局官制中左ノ通改正ス

第二條第一項中

「參事官

專任九人

奏任

内二人ヲ勅任ト

ヲ

書記官

一人

奏任

參事官ヲシテ

」

「參事官

專任十一人

奏任

内三人ヲ勅任ト

書記官

專任一人

奏任

ニ、一屬

專任九人」

内

閣

チ「屬 專任十一人」ニ改ム

同條第二項中「二部ヲ置ク」ヲ「三部ヲ置ク」ニ改メ「第二部」ノ次

ニ「第三部」ヲ加フ

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

各部ノ事務ノ連絡統合ヲ圖ル爲長官ノ定ムル所ニ依リ別ニ聯合部ヲ

置クコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(日本標準規格B4判) (横原納)

理由

法制局所掌事務ノ増加ニ伴ヒ現在ノ二部制ヲ三部制ト爲シ各部ノ事務ノ連絡統合ヲ圖ル爲長官ノ定ムル所ニ依リ別ニ聯合部ヲ置クコトヲ得ルコトトシ又書記官ハ之ヲ專任ト爲ス等ノ爲法制局官制中改正ヲ要スルモノアルニ依ル

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十四年四月二十七日

内閣總理大臣

勅令第百六十九號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十四條中「法制局參事官」ノ次ニ「法制局書記官」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

法制局書記官ヲ專任ト爲スニ伴ヒ改正ノ要アルニ依ル

参照

○法制局官制

明治二十六年十月
勅令第百十八號

(總理大臣副署)

第二條 法制局ハ内閣ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 内閣總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ上申スルコト
- 二 法律命令ノ制定、廢止、改正ニ付意見アルトキハ案ヲ具ヘテ内閣ニ上申スルコト
- 三 各省大臣ヨリ閣議ニ提出スル所ノ法律命令案ヲ審査シ意見ヲ具ヘ又ハ修正ヲ加ヘテ内閣ニ上申スルコト
- 四 前諸項ニ掲グルモノ、外内閣總理大臣ヨリ諮詢アルトキハ意見ヲ具ヘテ上申スルコト

第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長官 一人 勅任
- 參事官 專任九人 奏任内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
- 書記官 一人 奏任參事官ヲシテ奏任之ヲ兼ネシム
- 理事官 專任一人 奏任
- 屬 專任一人 判任

法制局ニ左ノ二部ヲ置ク其ノ事務分掌ハ長官之ヲ定ム

第一部

第二部

部長ハ參事官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 長官ハ局中一切ノ事務ヲ管理シ所部ノ官吏ヲ監督ス

第四條 奏任官ノ進退ハ長官之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條 長官事故アルトキハ上席參事官其ノ職務ヲ代理ス

第六條 參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル

第七條 書記官及理事官ハ長官ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

第九條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

參照

高等官官等俸給令

明治四十三年三月
勅令第三百三十四號

(總理大臣副署)

第十四條 別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ

(略)

内閣紀元二千六百年祝典事務局書記官
法制局參事官
賞勳局書記官
企畫院總裁秘書官

(略)

參照

昭和十四年度大藏省所管豫算

歲出經常部

第二款内閣

第一項俸給

第一目勅任俸給

第九節參事官

一三九五〇円

專任法制局參事官九人及增加見込人員二人計十一人内三人

俸給一人年俸四千六百五十円

(增員一人)

第二目奏任俸給

第一節書記官

四九九二〇円

十六人、内一人、(増加見込人員)法制局書記官各一人平均年俸三千百三十四円

第三節 参事官

二四、九六〇円

専任法制局参事官九人及増加見込人員二人計十一人、内八人、俸給一人平均年俸三千百二十円(増員一人)

第三目 判任俸給

第一節 屬

一三四、九四五円

専任定員二百四人、内百十三人及増加見込人員二十四人計百三十七人、俸給一人平均年額九百八十五円

〔備考〕 増員二十四人、内二人、法制局増員

言ひつゝ
又三人、
一人、人送
し目下仕
結中
一人ハ人送
し之右最
近控別ら
母直位職
ニ付ハ
足ぬこと
得らば
付らば

昭甲一〇八

昭和十四年四月二十四日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣 **近**

法制局長官

外務大臣 **近**

陸軍大臣

近

文部大臣

尾

遞信大臣

近

厚生大臣

近

内務大臣

近

海軍大臣

近

農林大臣

近

鐵道大臣

近

近衛樞密院議長

大藏大臣

近

司法大臣

近

商工大臣

近

拓務大臣

近

企畫院官制中改正ノ件外ニ件 起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

昭和十四年四月二十四日
昭甲一〇八

別紙ノ通

命 案

<p>四州八前出...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
-----------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

朕企畫院官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十四年四月二十七日

内閣總理大臣

勅令第三百七十號

企畫院官制中左ノ通改正ス

第二條中「技手 專任七人」ヲ「技手 專任六人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本會ハ公亦ハ日世リシキ圖行ス

附圖

第一機中一列手 幕升八人 一七 一列手 幕升六人 一七

全費總官時中式ノ幕如五ノ

幕合指ニテ五ノ

内閣事務大綱

第一機中一列手 幕升八人 一七 一列手 幕升六人 一七
全費總官時中式ノ幕如五ノ
幕合指ニテ五ノ

理由

經費節減ノ爲技手一名減員スルノ要アルニ依ル

朕昭和十二年勅令第六百六號企畫院ニ臨時職員増置ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十四年四月二十七日

内閣總理大臣

勅令第二百七十一號

企畫院臨時職員等設置制

第一條 資源統制運用計畫ニ關スル事務ニ從事セシムル爲企畫院ニ左

ノ職員ヲ増置ス

書記官

專任三人

三人
一人
一人
一人

調査官 専任三十三人 内一人ヲ勅任ト
爲スコトヲ得

事務官 専任二人

技師 専任十五人 内一人ヲ勅任ト
爲スコトヲ得

屬 専任二十八人

技手 専任二十一人

第二條 科學動員及科學研究ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲企畫院ニ一

部ヲ増置ス

前項ノ部ニ部長ヲ置キ企畫院高等官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ

部務ヲ掌理ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

國家總動員事務整備及科學動員等ニ關スル事務ニ從事セシムル爲書記
官二人、調査官七人、技師六人、屬十五人及技手三人ヲ増員シ經費節
減ノ爲技手一人減員スルノ要アルト科學動員等ニ關スル事務ヲ掌ラシ
ムル爲一部ヲ増置スルノ要アルトニ依ル

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

昭和十四年四月二十七日

内閣總理大臣

勅令第二百七十二號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

別表第一表内閣ノ部中企畫院調査官ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

企畫院技師

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

企畫院ニ勅任技師ヲ増置スルニ伴ヒ改正ノ要アルニ依ル

内

閣

四

法制局印

法制局令第九八號

昭和十四年四月十七日

企畫院上申第四六號

昭和十四年四月十五日

企畫院總裁 青木

一



內閣總理大臣 男爵 平 沼 騏一郎 殿

別紙企畫院官制中改正勅令案竝ニ昭和十二年勅令第六百六號企畫院ニ
臨時職員増置ノ件改正勅令案制定公布方御取計相成度此段及上申候

附甲一〇八

內閣

出

朕企畫院官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

勅令第 號

企畫院官制中左ノ通改正ス

第二條中「技手 專任七人」ヲ「技手 專任六人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

經費節減ノ爲技手一名減員セシムルノ要アルニ由ル

内

用

朕昭和十二年勅令第六百六號企畫院ニ臨時職員増置
ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

勅令第 號

第一條 企畫院ニ臨時左ノ職員ヲ増置ス

書記官 專任三人

調査官 專任二十三人
内一人ヲ勅任ト
爲スコトヲ得

事務官 專任二人

技師 專任十五人
内一人ヲ勅任ト
爲スコトヲ得

屬 專任二十八人

技手 專任二十一人

第二條 科學動員ノ企畫、科學研究ノ聯絡統制竝ニ科學研究ノ獎勵及助成ノ綜合調整ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲臨時企畫院ニ科學部ヲ置ク

第三條 科學部ノ部長ニ充ツル爲企畫院ニ臨時部長一人ヲ增置ス
企畫院高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム但シ他ノ部長ヲ以テ科學部ノ
部長ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

國家總動員事務整備並ニ科學動員等ニ關スル事務ニ
從事セシムル爲書記官二人、調査官七人、技師六人、
屬十五人及技手三人増員シ經費節減ノ爲技手一人減
員スルノ要アルト科學動員等ニ關スル事務ヲ掌ラシ
ムル爲科學部ヲ置キ部長一人（兼任）ヲ増置スルノ
要アルトニ由ル

參照

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ企畫院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年十月二十二日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿

勅令第六百五號 (官報 十月二十五日)

第二條 企畫院ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁	親任
次長	一人 勅任
部長	六人 勅任
秘書官	專任一人 奏任
書記官	專任十七人 奏任
調査官	專任十四人 奏任
事務官	專任六人 奏任
理事官	專任二人 奏任
技師	專任四人 奏任
屬	專任五十七人 判任
技手	專任七人 判任

前項ノ職員ノ外内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ事務官ヲ命ズルコトヲ得



9
月

參照

朕企畫院ニ臨時職員増置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年十月二十三日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿

勅令第六百六號 (官報 十月二十五日)

企畫院ニ臨時左ノ職員ヲ増置ス

書記官 專任一人

調査官 專任十六人 (内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得)

事務官 專任二人

技師 專任九人

屬 專任十三人

技手 專任十九人



内閣

參照

高等官官等俸給令

明治四十三年三月
勅令第百三十四號

(總理大臣副署)

(第一表)

文武高等官官等表

官等	勅任			奏任		
	親任	一等	二等	三等	四等	五等
官	內閣總理大臣	內閣書記官長	恩給局長			
官等		同上				
中略						
閣	企業院總裁	企業院次長	同上			
官		企業院調査官	企業院調査官			
官等		同上				
中略						
對滿事務局長						
總裁						



第八款 歲出經部 昭和十四年度歲入歲出總豫算
 人止畫院

第一項 俸給

目	十四年度要求額	十三年度豫算額	比較之差
第三目 判任俸給	六三〇五五	六三〇四〇	〇
			減 九八五

第二節 技手 五九一〇

專任定員七人，內減少見込人員一人，差引六人，俸給一人平均年額九百拾五圓



昭十四年度歲入歲出總豫算
 歲出臨時部
 第十五款 資源統制運用計畫應急諸費

第一項 資源統制運用計畫應急諸費

目	十四年度要求額		十三年度豫算額		比較差
	增	減	增	減	
第一目 勅任俸給	九三〇。		四六五。		四六五。

第二節 技師 四六五。

專任定員九人及增加見込人員三人計十二人內一人俸給

第一目 奏任俸給	八七八四。	八三〇八。	五七六。	。
----------	-------	-------	------	---

第四節 技師 三二六八。

專任定員九名增加見込人員三人計十二人內十人俸給一人平均年俸貳千八百八拾圓

第一目 判任俸給	三〇、五三五	三一、五二〇	。	九八五
----------	--------	--------	---	-----

第二節 技手 一七、七三〇。

專任定員十九人內減少見込人員一人差引十八人俸給一人平均年額九百八拾五圓



昭和十四年度歲入歲出總豫算追加(第三號)

第十五款 歲出臨時部 資源統制運用計畫應急諸費

一三八、九〇。〇

第一項 資源統制運用計畫應急諸費

一三八、九〇。〇

目 十四年度追加要求額

第二目 奏任俸給 三六、七二〇

第一節 書記官 六、二四〇

二人、俸給一人平均年俸參千百貳拾圓

第二節 調查官 二、八四〇

七人、俸給一人平均年俸參千百貳拾圓

第四節 技師 八、六四〇

三人、俸給一人平均年俸貳千八百八拾圓

第三目 判任俸給 一七、七三〇

第一節 屬 一四、七七五

十五人、俸給一人平均年額九百八拾五圓



昭和十四年度企畫一院俸給經理表

昭和十四年四月十日調

區分	單價	經常費		臨時費		計		所要見込額		差引過不足	
		員數	金額	員數	金額	員數	金額	員數	金額	員數	金額
勅任俸給		八	四、九〇〇	二	九三〇	一〇	五、八三〇	九	四、五三〇	一	一、三〇〇
總裁		一	六五〇			一	六五〇	一	六五〇		
次長		一	五八〇			一	五八〇	一	五八〇		
部長		四	一、八六〇			四	一、八六〇	四	一、八六〇		
同(武官)		二	一〇、〇〇〇			二	一〇、〇〇〇	二	一〇、〇〇〇		
調查官		一	四六五	一	四六五	二	九三〇	一	四六五	一	四六五
技師		一	四六五			一	四六五	一	四六五		
奏任俸給		四	三、四六〇	一	一、三四六	五	四、八〇六	七	一、七三九	一	三、〇六七
秘書		一	六、一〇〇			一	六、一〇〇	一	六、一〇〇		
書記		一	五、三〇〇			一	五、三〇〇	一	五、三〇〇		
調查官		一	四、三六〇			一	四、三六〇	一	四、三六〇		
事務官		一	六、一七〇			一	六、一七〇	一	六、一七〇		

内